

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第16号 平成20年 9月 9日

チームの一体感は？・が？ 困った時こそ…

タナボタ勝利！ 何とか5割復帰…



9月7日港区まで足を伸ばし、芝公園にて、水神ファイターズとオープン戦を行った。この日は何故か横浜・川崎近郊のチームからのアップが無く、結果横浜に比較的近い港区での対戦となった。今日の我がチームは後攻、先発は牧野でゲームが始まった。今日の牧野はピリっとしない内容で、1回を打者7人に対して、四球4、アウトは全て三振という立ち上がりで1点を献上し、幕を開けた。2回は先頭打者をセカンドゴロに打取ったが、セカンド那須の送球が硬くなり、ボールはホーム寄りに反れ、エラーでランナーを出した。続く打者にこの日5個目の四球で、ランナー1、2塁。続く打者をショートゴロに打取ったかに見えたが、硬いグラウンド故に思い以上にボールが跳ね、深沢の頭上を越していった。この辺から投手・守備のリズムが大きく乱れ始めた。投手の調子悪さを野手がカバーしようと思ふ反面、結果が出なかった事に対して、今度は逆に野手に硬さが現れてしまった。お互いの思いが空回りし、結果は悪い方向に向かっていった。ベンチから「声が出てないぞー」という声が何度か出た。では、何故、声を出すのだろうか？ 帰りの大雨ドライブの中で私の頭はその言葉で埋め尽くされていた。そこで思った解は、声を出す事によって、チームの内面から気持ちを高めて、行く事なのではないか？ という事だった。勝っている時、競っている時、気持ちが高揚しているが故に、自然に声が出ていると思う。しかし、今回のように展開が悪くなっている時は逆に自然に声が出ていない。言い換えれば、気持ちが落胆しているが故に、声を出す事を忘れてしまっているのだと思う。まさに呆然！ しかし、こんな時こそ、まさにチーム一丸声が必要なのではないか？ 投手が苦しんでいる、野手がエラーをしてしまった、お互いがお互いに気を使う、これが団体プレーですね。結果を恐れず、仲間を信じ、一生懸命プレーする事で、窮地から脱出が図れると思う。それでも脱出が図れない場合は、相手が悪かったと開き直るか？ これから、まだ後半戦が続きます。結果を恐れず、ベンチでお互いを気遣い、ディスカッションをし、早い段階での修正をチームで行おう！ それが勝利への近道、何よりチームの成長に繋がると感じた。